

関東北東域アクセント事象についての方言地理学的研究 —拍名詞にみる当域の傾向

河内 秀 樹

Abstract

Three kinds of accent systems exist in the Tochigi prefectural area. One is the "No-pattern accent system", which can be seen in general all over the prefecture. The second is the "Tokyo accent system" which is most noticeable in the prefecture's Ashikaga city. The third, which is the "Ambiguous accent system", has characteristics of both the above mentioned accent systems and is mostly found in Sano city.

This study investigates the characteristics of the present accent of the Tochigi prefecture which possesses all these three kinds of accent system. It also considers the influence which "the phenomenon of doing the common becoming the word" exerts.

キーワード.....アクセント 崩壊アクセント 曖昧アクセント 東京式アクセント
共通語アクセント 地域差 年代差

はじめに

関東地方の北東域のアクセント事象は、東北地方方言との接触により、きわめて特異性を持っているといえる。とりわけ、栃木県とその周辺域には四種類のアクセント型が存在し、今もなおその対立構造は続いている。そのアクセント型は、以下のように分類される。

1. 崩壊アクセント

いわゆる福島県・宮城県の一部・山形県の一部等の東北地方南部にみられるアクセント現象であり、アクセント型の弁別の崩壊が起こったもの。本研究では栃木県の南西部を除くほぼ全域、及び茨城県が該当する。

2. 東京式アクセント

一般に旧東京市街地区にみられるアクセント現象であり、本研究では、『国語学大辞典』所蔵の「日本語アクセント類別語彙表」にしたがっている。栃木県足利市と群馬県邑楽郡邑楽町が本研究における東京式アクセント地域である。

3. 曖昧アクセント

1と2との接境域にみられるアクセント現象。一般には2から1への過渡的状态のことを指す。本研究では栃木県佐野市とその周辺地域が該当する。

4. 埼玉特殊アクセント

形式は京都式に類似するものの、東京式アクセントの系列に位置するもの。本研究では埼玉県羽生市・北葛飾郡栗橋町が該当する。

本研究では、3の曖昧アクセントを中心に、1と2との接境域の現在位置や4の現在の姿について追究していくものとする。今回は、一拍名詞の調査語について、全調査地域における現在の姿を元に、本研究対象地域のアクセントの実態に迫るものとする。

1. 一拍名詞にみるアクセントの実態

1-1. 老年層について

[表1]として、老年層の第一類から第三類の一覧表を示した。

老年層においては、やはり全体的に実現型の一型化が激しい。[表1]を元に頭高一型と認められそうな地域を<図1>に示した。なお、[表]や<図>で使用した凡例は本論の最後に記してある。

<図1>より、かなり一型的な地域が多くみられる。特に頭高一型的になることが多く、その領域は栃木県全域でみられる。また、頭高一型的な傾向ほどではないが、尾高一型的な傾向も存在し、やはりこれも栃木県全域、特に南部域でみられる。さらにこの尾高一型的な傾向は群馬県邑楽郡にもみられる。

また、逆に一型的ではない、どの類も等しく型・型が混在する地域も図1に示した。これは栃木県の北部域ではあまりみられず、主に中央部から東部域と、南西部から群馬県邑楽郡・羽生市もそのような傾向であったといえる。

そして、東京式的な姿を示した地域も図示した。しかしそれはごく僅かではなく、足利市・佐野市・邑楽町の一部にしかみられなかった。

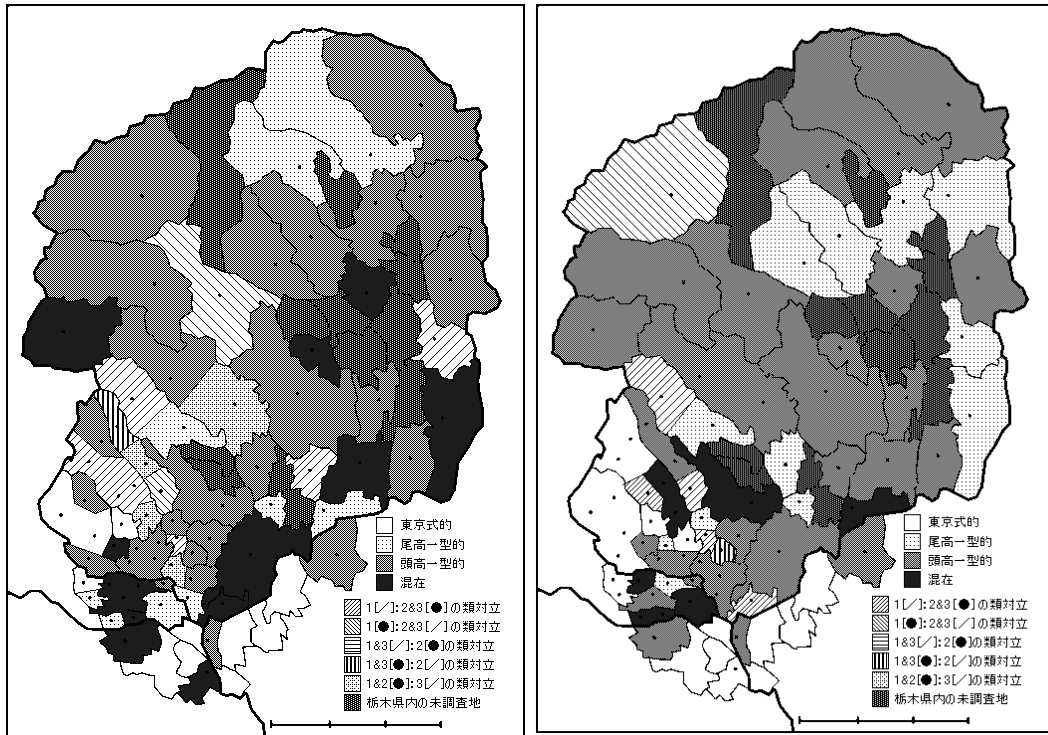
結果として全類を通してみると、老年層では実現型は何かしらの一型的な姿を示していることが多い。しかし、本来一型というのはアクセント弁別意識の上で一型であり、崩壊アクセント地域ではアクセント弁別意識が薄れ、なくなっているという点で異なる。しかしながら、その実現型の姿はあたかも一型のように振る舞っている。このような姿は、大橋（1988）に「崩壊一型アクセント」とよばれるものに一致すると思われる。この呼称に、私は本論において、「指向」ということばを付加して表現してみようと思う。しかるに、当地の老年層のアクセントの実現型の姿は「頭高指向一型アクセント」「尾高指向一型アクセント」のように表現する。そしてこのことばの意味するところは、アクセントの弁別意識はないのだが、実現型はある一定のアクセント型にのみ向かっていくという意味である。

[表 1] 老年層一拍名詞

老年層 地点名	第一類					第二類					第三類											
	柄が	蚊が	子が	血が	戸が	帆が	名が	葉が	日が	藻が	矢が	絵が	尾が	木が	手が	菜が	根が	火が	穂が	目が	湯が	
那須町	/	/								/	/											
黒磯市	-		/	/		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		/	/	/		
塩原町	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		/	/	/			/	/	/	
栗山村			/	/																	/	
大田原																						
黒羽町																						
矢板市																						
塩谷町																						
日光市																						
今市市								/	/			/				-	/	/	/	/	/	/
喜連川	/		/		/			/				/		/						/	/	/
馬頭町					/																	
足尾町	/		/	/	/	/			/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		-	/	/
河内町		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/			/
烏山町	/	/	/	/	/	/																
粟野 a	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
粟野 b	/	/	/	/	/	/	-	-				/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
鹿沼 a			/			/										-	/	/	/	/	/	/
鹿沼 b																						
宇都宮																						
芳賀町																						
茂木町	/	/		/	/		/	/	/	/		/				/	/		/	/	/	/
壬生町								/	/									/	/			
上三川	/	/	/	/	/	/		/				/					/	/	/	/	/	/
真岡市	/				/			/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
益子町																						
栃木市		/	/		/	/						/	/	/	/	/	/	/	/	/	-	
国分寺	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
二宮町	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
大平町																						
小山市	/						/	/				/		/					/	/		
野木町	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
中央							/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
仙波		/					/	-	-			/		/		-	/	/	/	/	/	/
水木	/				/	/	/	/	/					/	/	/	/	/	/	/	/	/
栃本					/	/	/	/	/			/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
船越	/	/	/	/	/	/																
作原																						
山形	/	/	/		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
飛駒	/	/	/	/	/																	
小野寺																						
三谷	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
静					/						/					-		/	/	-		
名草中			/	/						/								/	/	/	/	/
山下町	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
山川町	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
駒場町			/	/			/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
県町																						
赤見町	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
並木町																						
犬伏下																						
上羽田								/				/	/	/								
高萩町																						
馬門町	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
大田和					/	/					/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
大前								/			/											
藤岡	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
中野	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
赤堀	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
成島町			/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
大島町	/		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
緑町		/	/			/						/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
大高島		/																				
板倉	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
上江黒	/	/	/	/	/	-	/	/	/	/	/	/	-	-	-	-	/	/	/	/	/	/
川俣	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
羽生市	/				/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	-	/	/	/	/	/	/
栗橋町		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
古河市			/																			
下館市									/													/

<図 1：各類を通して（老年層）>

<図 2：各類を通して（中間年層）>



1-2. 中間年層について

[表 2] として、中間年層の第一類から第三類の一覧表を示した。

中間年層においても、指向一型の傾向であり、やはり東京式アクセントの影響を受けたものとは思えない地点が多数存在する。その様子を<図 2>としてまとめた。

中間年層でも指向一型的なものが多くみられる。特に栃木県内では、ほぼ全域で何らかの指向一型的な姿を示している。また、この年層では群馬県邑楽郡や埼玉県羽生市・茨城県でも指向一型の姿であった。

頭高指向一型はほぼ全調査地域にみられ、栃木県の北部から埼玉県羽生市までみられる。特に栃木県内は、那須・塩原などの北部域、日光・足尾から宇都宮を経て真岡・益子へと横断する中央域、そして小山から佐野へと続く南部域との3つの領域にわたりみられている。尾高指向一型は先の頭高指向一型の3地域の間みられている。

また、中間年層では ・ が混在しているという状況は少なく、栃木県の南部から群馬県邑楽郡にみられる程度になっている。

そして、栃木県の南西部を中心に群馬県邑楽町まで含めた地域では東京式アクセントに準じているものと思われた。老年層と比較すると明確に地域が広がっている。今後東京式アクセシ

トの広がっていく一つの兆しであるように思われる。

1-3 . 青年層について

[表3]として、青年層の第一類から第三類の一覧表を示した。

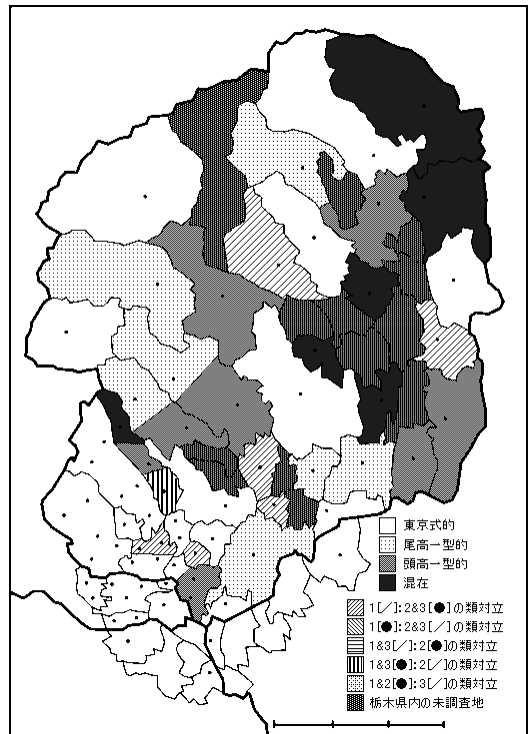
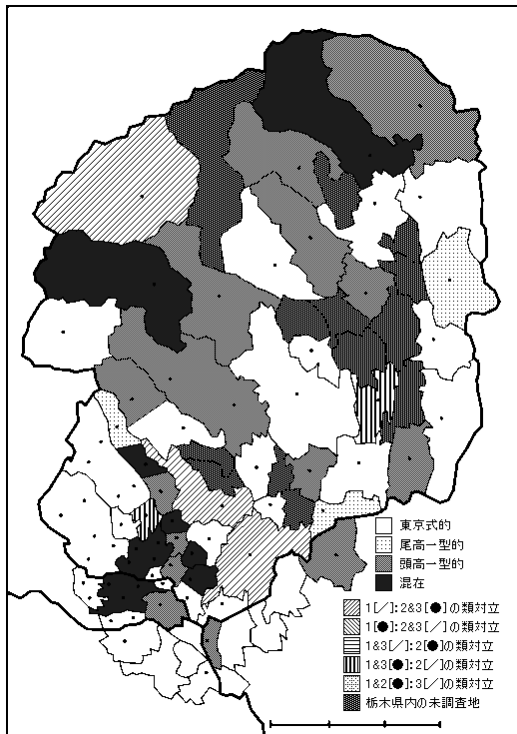
青年層では、多くの地点で東京式アクセントに準ずる地点が増えてきている。しかし、また若干の指向一型的な姿を残している地点もみられる。その様子を<図3>として示した。

<図3>より、青年層では調査地域全域にて、東京式アクセントのように類毎の傾向の違いを示す地点がみられている。それはやはり足利市などの東京式アクセントの地域の分布が目立つところであるが、栃木県内各地にみられていることより、共通語アクセントとして一気に広まったものと考えるのが妥当であろうか。

その一方で指向一型的な地点も未だ多くみられている。頭高指向一型的なものは栃木県の鹿沼市等の山間部から北部にかけてまとまってみられる他、県内に数地点散見され、また茨城県や板倉町にもみられる。しかし尾高指向一型的なものは、頭高指向一型ほどみられない。そして、栃木県南西部には混在的な状況を示す地点がまとまっており、過渡的なアクセントの姿の現れであろうと思われ、共通語アクセントの広がり的一方、全体的にはこのような未だ発展途上の段階と思われる地点が多数確認される。

<図3：各類を通して（青年層）>

<図4：各類を通して（若年層）>



[表2] 中間層一拍名詞

中間年層 地点名	第一類					第二類					第三類											
	柄が	蚊が	子が	血が	戸が	帆が	名が	葉が	日が	藻が	矢が	絵が	尾が	木が	手が	菜が	根が	火が	穂が	目が	湯が	
那須町					/																	
黒磯市																						
塩原町		/			/											/		/			/	
栗山村							/	/	/			/		/				/	/	/	/	/
大田原	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
黒羽町	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
矢板市		/			/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
塩谷町	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
日光市																						
今市市				/	/		/									/						
喜連川																						
馬頭町								/	/													
足尾町																						
河内町																		/				
烏山町	/		/	/	/		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
粟野 a	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	-	/	-	/	/	/	/	/	/	/
粟野 b	/	/	/	/		-																
鹿沼 a					/													/	/			
鹿沼 b																-						
宇都宮													/									
芳賀町																						
茂木町	/		/	/	/		/		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
壬生町	/		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
上三川																						
真岡市																						
益子町								/				/										
栃木市		/	/	/			/	/			/				/	/						
国分寺	/	/	/	/			/	/	/		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
二宮町	/			/	/		/		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
大平町																						
小山市																						
野木町	/	/		/	/				/			/	/					/				
中央		/	/		-	/																
仙波								/														
水木					-	/		/	/													
栃本		/	/		/	/	/	/	/							-	/					/
船越	/	/			/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
作原		/	/	/	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
山形	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
飛駒	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
小野寺	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
三谷	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
静							/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
名草中		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
山下町	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
山川町	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
駒場町		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
県町		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
赤見町		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
並木町	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
犬伏下	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
上羽田	/	/						/														
高萩町																						
馬門町				/																		
大田和		/	/							-												
大前						/									/							
藤岡																						
中野	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
赤堀	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
成島町	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
大島町	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
緑町	/	/					/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
大高島					/		/								/							
板倉		/	/	/	/										-	/	/	/	/	/	/	/
上江黒	/	/						/			/				/	-						
川俣		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
羽生市		/													-	-						
栗橋町	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
古河市	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
下館市	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

[表 3] 青年層一拍名詞

青年層 地点名	第一類					第二類					第三類											
	柄が	蚊が	子が	血が	戸が	帆が	名が	葉が	日が	藻が	矢が	絵が	尾が	木が	手が	菜が	根が	火が	穂が	目が	湯が	
那須町	/																					
黒磯市	/	/	/				/	/	/							/		/				
塩原町																						
栗山村	/	/	/	/	/		/		/									/	/	/	/	
大田原		/	/	/	/		/	/	/							/		/				/
黒羽町		/	/	/	/		/	/	/	/												
矢板市								/														
塩谷町	/	/	/	/	/		/	/	/	/						/	/					
日光市				/	/		/		/							/						/
今市市																						
喜連川		/		/																		
馬頭町	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
足尾町	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/					-	-	/	/			
河内町		/	/	/	/		/	/	/	/	/								/			
烏山町	/	/	/	/	/		/	/	/	/												
粟野 a		/	/	/	/		/		/													
粟野 b	-		/	/																		
鹿沼 a		/															-					
鹿沼 b																						
宇都宮	/	/	/	/	/		/		/	/						/			/			/
芳賀町	-						/		/	/												
茂木町	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/						/		-				/
壬生町		/	/	/	/		/	/	/	/	/											
上三川	/	/					/															
真岡市	/	/	/	/	/		/	/	/	/												
益子町																						
栃木市	/	/	/	/			/															
国分寺	/	/	/	/	/		/	/	/	/												
二宮町	/	/	/	/	/		/	/	/	/	/	/		/		/		/				/
大平町	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		-		/	/						
小山市	/	/	/	/																		
野木町	/	/	/	/	/		/	/		/												/
中央																						
仙波			/				/	/		/						/						/
水木	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
栃本	/	/	/	/	/		/	/	/	/												/
船越	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/												
作原	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/												
山形	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/												
飛駒	/	/	/	/	/		/	/	/	/										/		/
小野寺	/	/	/	/	/		/	/	/	/					/	/	/	/	/	-		/
三谷																						/
静	/	/	/	/	/		/	/	/	/		/		/	/	/	/	/	/	/	/	/
名草中	/	/	/	/	/		/	/	/	/					/	/		/		/		/
山下町	/	/	/	/	/		/	/	/	/												/
山川町	/	/	/	/	/		/	/	/	/					/							/
駒場町	/	/	/	/	/		/	/	/	/												
県町	/	/	/	/	/		/	/	/	/							/		/			
赤見町	/	/	/	/	/		/	/	/	/												
並木町				/	/		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	-	-		
犬伏下				/	/		/	/	/	/												
上羽田	/	/	/	/																		
高萩町	/	/	/	/			/		/													
馬門町		/	/	/	/	/	/	/	/	/												/
大田和																						
大前					-		/	/					-		-		-		-	/		
藤岡	/	/	/	/	/		/	/	/	-												/
中野	/	/	/	/	/		/	/	/	/					/							
赤堀	/	/	/	/	/		/	/	/	/												
成島町	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
大島町	/	/	/	/	/		/	/	/	/		/		/		/	/	/	/	/	/	/
緑町		/	/	/	/	/	/	/	/	/					/	/	/	/	/	/	/	/
大高島	/	/	/	/	/		/	/	/	/					/						/	
板倉																						
上江黒	/	/	/	/	/		/	/	/	/												
川俣	/	/	/	/	/		/	/	/	/					/							
羽生市	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		/										
栗橋町	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		/			/							
古河市			/	/																		/
下館市																		/				

[表4] 若年層一拍名詞

若年層 地点名	第一類					第二類				第三類											
	柄が	蚊が	子が	血が	戸が	帆が	名が	葉が	日が	藻が	矢が	絵が	尾が	木が	手が	菜が	根が	火が	穂が	目が	湯が
那須町	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/					/	/	/	/	/	/	/
黒磯市	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/					/	/	/	/	/	/	/
塩原町	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/				/	/	/	/	/	/	/	/
栗山村	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/								/	/	/	/
大田原																					
黒羽町	/		/	/	/			/										/	/	/	/
矢板市	/	/	/	/	/	/	/	/	/				/								
塩谷町	/	/	/	/	/	/	/	/	/												
日光市	/	/	/	/	/	/	/	/	/			/	/		/		/	/	/	/	
今市市	/	/	/	/	/	/	/	/	/						/		/	/	/	/	
喜連川	/	/	/	/	/	/	/	/	/			/									
馬頭町	/	/	/	/	/	/	/	/	/						/						
足尾町	/	/	/	/	/	/	/	/	/				/						/	/	
河内町	/	/	/	/	/	/	/	/	/				/	/		/		/	/	/	
烏山町	/	/	/	/	/	/	/	/	/												
粟野 a			/	/	/	/	/	/	/												
粟野 b	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		/			/	/		/	/	/	/
鹿沼 a																					
鹿沼 b	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		/				-		/	/	/	
宇都宮	/	/	/	/	/	/	/	/	/						/						
芳賀町	/	/	/	/	/	/	/	/	/			/			/	/	/	/	/	/	
茂木町																/	/	/	-	/	/
壬生町	/	/	/	/	/	/	/	/	/						/		-	/	/	/	/
上三川	/	/	/	/	/	/	/	/	/		/	/			/	/	/	/	/	/	/
真岡市	/	/	/	/	/	-	/	/	/	/		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
益子町	/	/	/	/	/	/	/	/	/												
栃木市	/	/	/	/	/	/	/	/	/												
国分寺	/	/	/	/	/	/	/	/	/												
二宮町	/	/	/	/	/	/	/	/	/						/			/	/	/	
大平町	/	/	/	/	/	/	/	/	/							/					
小山市	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
野木町	/	/	/	/	/	/	/	/	/						/						
中央	/	/	/	/	/	/	/	/	/									/	/	/	/
仙波	/	/	/	/	/	/	/	/	/						/			/	/	/	/
水木	/	/	/	/	/	/	/	/	/						/	/	/	/	/	/	/
栃本	/	/	/	/	/	/	/	/	/												
船越	/	/	/	/	/	/	/	/	/						/						
作原	/	/	/	/	/	/	/	/	/												
山形	/	/	/	/	/	/	/	/	/												
飛駒	/	/	/	/	/	/	/	/	/						/						/
小野寺	/	/	/	/	/	/	/	/	/						/	/	/	/	/	/	
三谷	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		/	/								
静	/	/	/	/	/	/	/	/	/			/			/						/
名草中	/	/	/	/	/	/	/	/	/												
山下町	/	/	/	/	/	/	/	/	/												
山川町	/	/	/	/	/	/	/	/	/			/			/						
駒場町	/	/	/	/	/	/	/	/	/												
県町	/	/	/	/	/	/	/	/	/						/						/
赤見町	/	/	/	/	/	/	/	/	/						/			/	/	/	
並木町	/	/	/	/	/	/	/	/	/												
犬伏下	/	/	/	/	/	/	/	/	/									/	/	/	/
上羽田	/	/	/	/	/	/	/	/	/			/			/			/	/	/	/
高萩町	/	/	/	/	/	/	/	/	/												
馬門町	/	/	/	/	/	/	/	/	/			/									/
大田和	/	/	/	/	/	/	/	/	/												
大前	/	/	/	/	/	/	/	/	/												
藤岡	/	/	/	/	/	/	/	/	/												
中野	/	/	/	/	/	/	/	/	/										/	/	/
赤堀	/	/	/	/	/	/	/	/	/							/		/	/	/	/
成島町	/	/	/	/	/	/	/	/	/						/						/
大島町	/	/	/	/	/	/	/	/	/												
緑町	/	/	/	/	/	/	/	/	/						/						
大高島	/	/	/	/	/	/	/	/	/												
板倉	/	/	/	/	/	/	/	/	/												
上江黒	/	/	/	/	/	/	/	/	/												
川俣	/	/	/	/	/	/	/	/	/						/						
羽生市	/	/	/	/	/	/	/	/	/												
栗橋町	/	/	/	/	/	/	/	/	/										/	/	/
古河市	/	/	/	/	/	/	/	/	/												
下館市	/	/	/	/	/	/	/	/	/			/			/	/				/	/

1-4. 若年層について

[表 4] として、若年層の第一類から第三類の一覧表を示した。

青年層よりもさらに共通語アクセント的な傾向は広がりを見せたと思われる。しかし、一方で栃木県域では、指向一型的な傾向と判断される地点も少なからず存在しており、未だ不安定な点が残っているといえよう。その様子を<図 4>として示した。

<図 4>によると、全域的に東京式アクセント的な傾向を示す地点は調査地域全域でみられ、特に栃木県南西部より南の地域ではかなり安定したものと思われる。

しかし、一方で栃木県内の広範囲にわたり、指向一型的なものや混在状況と思われるものもみられ、不安な要素もみられる。

この若年層の<図 4>と青年層の<図 3>とを比較してみると、同じような地域で東京式でないパターンとされるものがみられることに注目したい。特に、日光市・鹿沼市を中心とする地域、益子町を中心とする地域などでは、青年層・若年層に共通してアクセントが乱れている様子が見える。この両地域を裂いているように位置する宇都宮市では、青・若ともに東京式的な姿をみせており、中心と郊外のような対立にみとれるかもしれない。しかし、青年層も若年層も圏論的なものとみるには少々苦しいところがあるかもしれない。それは栃木県の最外周の地点において東京式アクセント的な姿を示す地点があり、また、この東京式アクセント的なものは、得てして共通語アクセント的なものと判断される。共通語アクセントならば、各地点でそれぞれに起こり得る可能性があり、方言圏論的な解釈は通用しないであろうからである。部分的ではあるが、圏論的な分布であるものの、やはり実態として地域という観点はそれほど当を得るものではなくなりつつあるように思われる。

2. ミニマルペア比較

ここではいわゆる同音異義語によるミニマルペア同士の比較を行う。

2-1. 「柄」と「絵」

先の [表 1] ~ [表 4] より「柄」と「絵」のみを抜き出した表を [表 5] として作成した。以下に掲げる。

老年層から順にみていく。老年層においてはほとんどの地点で両方とも同じになる場合が多く、やはり弁別意識は欠けるものと思われる。また、東京式アクセントのように「柄」を</> []、「絵」を< > [] と示している地点も 20 地点みられるものの、先の [図 1] と比較して、一拍名詞全体として東京式アクセントに準じるものではないかと判断される地点は、佐野市赤見町・足利市山下町・邑楽町中野の 3 地点のみ（一致率約 15%）であり、その他の地点では偶然そうなったものにすぎないと判断される。したがって、老年層において「柄」と「絵」

[表5]「柄」と「絵」の比較

地点名	那須町	黒磯市	塩原町	栗山村	大田原	黒羽町	矢板市	塩谷町	日光市	今市市	喜連川	馬頭町	足尾町	河内町	烏山町	粟野a	粟野b	鹿沼a	鹿沼b	宇都宮	芳賀町	茂木町	壬生町	上三川	真岡市	益子町	栃木市	国分寺	二宮町	大平町	小山市	野木町	中央	仙波	水木	
老年層	柄が絵が	/	-	/							/		/	/	/	/					/		/	/	/		/	/	/	/	/					
中間年層	柄が絵が				/	/	/	/						/	/	/						/	/			/	/	/		/						
青年層	柄が絵が	/		/			/					/	/	/		-			/	-	/							/	/	/	/					/
若年層	柄が絵が	/	/	/		/		/		/	/	/	/	/				/		/			/					/	/	/	/					

地点名	栃本	船越	作原	山形	飛駒	小野寺	三谷	静	名草中	山下町	山川町	駒場町	赤見町	並木町	犬伏下	上羽田	高萩町	馬門町	大田和	大前	藤岡	中野	赤堀	成島町	大島町	大高島	板倉	上江黒	川俣	羽生市	栗橋町	古河市	下館市		
老年層	柄が絵が	/		/	/	/	/	/		/			/					/		/	/	/	/	/	/		/	/	/	/	/				
中間年層	柄が絵が	/				/				/	/			/	/	/				/	/		/	/	/		/	/	/	/	/		/		
青年層	柄が絵が		/			/	/	/	/	/	/	/	/	/		/	/					/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
若年層	柄が絵が		/			/	/					/	/	/					/		/	/	/	/	/		/				/	/	/		/

との違いについてはほぼ区別を付けることはできないといえよう。

中間年層も同様にもと、ほとんどの地点でアクセントは同じ型を示している。東京式アクセントのように示した地点は12地点であるが、そのうち先の[図2]と比較して東京式アクセントに準じるものと思われる地点は、佐野市犬伏下町・足利市山下町・同山川町・邑楽町赤堀・栗橋町の5地点のみ（一致率約42%）となる。やはり中間年層においても区別を付けることは難しいように思われる。

青年層では、東京式的になった地点は28地点であり、中間年層から比べればかなり増加したといえよう、しかし一方で、両方ともに同じになった地点は39地点（内、頭高であったのは36地点）であり、東京式的になった地点を凌駕している。また、東京式的になった28地点中、19地点は先の<図3>と比較して東京式アクセントに準じるものと一致した（一致率約68%）が、残り9地点はそうではなくここでは偶然的なものとして判断される。老年層から比較すると徐々に東京式アクセント的な意識をもつ地点は増えているものの、「柄」と「絵」に関して多くはその意識が明確でない場合が多い。

若年層では、東京式的になった地点は28地点、両方とも同じになった地点は41地点（内、頭高であったのは40地点）であり、青年層とほぼ同じ数である。先の<図4>との比較にて19

地点は東京式アクセント的であると判断される。よって、一致率は約 68%と青年層とほぼ同じ割合で「柄」と「絵」については違いが述べられることになる。

「柄」のアクセントが頭高になりやすく、そのためにこのような全体的に低い結果になっているものと思われる。『NHK 日本語発音アクセント辞典』において「柄」のアクセントについて、特に注記などなく、東京式は であることを考えると、当調査地域において、アクセントの弁別意識は低いものと思われよう。

2-2. 「名」と「菜」

同様に、[表 1] ~ [表 4] より「名」と「菜」のみを抜き出した表を [表 6] として作成した。以下に掲げる。

[表 6] 「名」と「菜」の比較

	地点名	那須町	黒磯市	塩原町	栗山村	大田原	黒羽町	矢板市	塩谷町	日光市	今市市	喜連川	馬頭町	足尾町	河内町	烏山町	粟野 a	粟野 b	鹿沼 a	鹿沼 b	宇都宮	芳賀町	茂木町	壬生町	上三川	真岡市	益子町	栃木市	国分寺	二宮町	大平町	小山市	野木町	中央	仙波	水木		
老年層	名が菜が	/	/													/	/	/						/			/	/			/	/			/	/	/	
中年層	名が菜が				/	/	/	/	/	/					/								/	/			/	/					/	/			/	/
青年層	名が菜が	/	/	/	/	/	/	/	/	/			/	/	/	/	/	/			/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
若年層	名が菜が	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

	地点名	栃本	船越	作原	山形	飛駒	小野寺	三谷	静	名草中	山下町	山川町	駒場町	赤見町	並木町	犬伏下	上羽田	高萩町	馬門町	大田和	大前	藤岡	中野	赤堀	成島町	大島町	緑町	大高島	板倉	上江黒	川俣	羽生市	栗橋町	古河市	下館市		
老年層	名が菜が	/	/	/			/			/	/	/							/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
中年層	名が菜が		/				/			/	/	/	/	/	/					/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
青年層	名が菜が	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
若年層	名が菜が	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

老年層では、多くの地点で両方同じアクセントを示している。その一方で東京式的になった地点は、10 地点みられるが、<図 1>との対比において、全体的に東京式アクセント的な姿を持ち合わせた地点は、佐野市赤見町・足利市山下町・同山川町・邑楽町中野の 4 地点(一致率 40%)であり、それ以外は偶然的なものと思われる。したがって、当調査地域では「名」「菜」について区別をつけることは難しく思われる。

中間年層については、やはりほとんどの地点は同じアクセントを示している。東京式のようになった地点は9地点と少なく、その内<図2>との対比にて、東京式アクセントの姿であろうとされる地点は7地点と一致率は約78%と高かった。しかし多くの地点では違いをつけられない状況から、意識は薄いものと思われる。

青年層については、頭高のみを示したのは18地点、尾高のみを示したのは18地点、したがって同じ型であった地点の合計は36地点であった。一方東京式アクセントのような型を示したのは27地点であり、内<図3>と比較して、東京式アクセントの姿と思われる地点は18地点（一致率約67%）であった。中間年層から比較すると東京式的に違いをつけている地点は増加しているといえよう。

若年層では、両方の語が頭高であった地点は12地点、尾高のみであった地点は28地点、よって合計で40地点が同じ型を示した。そして東京式アクセントのような型を示した地点は24地点であり、<図4>との比較にて、一拍名詞について全体的に東京式的になっている地点は20地点であり、かなり高い一致率（約83%）を示しているといえる。

若年層での一致率が先の「柄」と「絵」の場合よりも高く、両方の語を違うアクセントで発話した話者のほとんどは区別をわかっているものと思われる。しかし全体的にみると、70地点中の20地点しかないことは、当調査地域での東京式アクセントの浸透はまだまだ行き及んでいないものと考えられよう。

2-3. 「日」と「火」

同様に、[表1]～[表4]より「日」と「火」のみを抜き出した表を[表7]として作成した。

老年層では、49地点（内31地点は頭高）と大半の地点で両方の語は同じアクセントになった。それに対し、16地点で東京式に沿った形を示した。この内4地点は<図1>で東京式アクセント的な姿をみせている地域と一致した。一致率は25%であり、やはりあまり高くはなく、多くは偶然にそうなったものといえよう。同じアクセントを示す地点が多いことや、この一致率の低さより型の弁別はされていないといえよう。

中間年層では、42地点（内24地点は頭高）といまだ大半といえる地点で同じアクセントを示していた。それに対して22地点で東京式に沿った形を示した。この中で9地点が<図2>における東京式アクセント的な姿をみせる地点と一致していた。一致率は約41%であり老年層から比較すれば上昇傾向にあることは間違いないであろう。未だ同じアクセントを示す地点が半分以上あり、一致率も40%弱ということで、この「日」と「火」の弁別についての意識はまだ低いものではないかと思われる。

青年層では、同じアクセントを示した地点は33地点（内21地点は頭高）と半数を切り始めた。そして東京式に沿った形を示した地点は35地点であり、ほぼ同じアクセントを示す地点と

[表7]「日」と「火」の比較

	地点名	那須町	黒磯市	塩原町	栗山村	大田原	黒羽町	矢板市	塩谷町	日光市	今市市	喜連川	馬頭町	足尾町	河内町	烏山町	栗野 a	栗野 b	鹿沼 a	鹿沼 b	宇都宮	芳賀町	茂木町	壬生町	上三川	真岡市	益子町	栃木市	国分寺	二宮町	大平町	小山市	野木町	中央	仙波	水木	
老年層	日が火が	/	/							/	/			/	/	/	-					/	/	/	/		/	/	/	/	/	/	/	/	/	-	/
中間年層	日が火が			/	/	/	/	/				/			/	/						/	/	/	/		/	/	/	/					/	/	
青年層	日が火が	/	/	/	/	/	/	/				/	/	/	/	/					/	/	/	/	/		/	/	/	/					/	/	
若年層	日が火が	/	/		/	/	/	/		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/			-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

	地点名	栃本	船越	作原	山形	飛駒	小野寺	三谷	静	名草中	山下町	山川町	駒場町	県町	赤見町	並木町	犬伏下	上羽田	高萩町	馬門町	大田和	大前	藤岡	中野	赤堀	成島町	大島町	緑町	大高島	板倉	上江黒	川俣	羽生市	栗橋町	古河市	下館市		
老年層	日が火が						/			/	/	/			/		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
中間年層	日が火が	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
青年層	日が火が	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
若年層	日が火が	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

袂を分かつ分布であるといえよう。この 35 地点の内、26 地点が<図 3>における東京式アクセント的な姿をみせる地点と一致しており、その一致率は 74% に達している。かなりの割合で弁別の意識を持っていることが予想されることであろう。若年層においては、同じアクセントを示した地点は 22 地点（内 13 地点は頭高）であり、かなり減少したといえよう。一方、東京式に沿った形を示した地点は 42 地点におよび、さらに、その内の 36 地点が<図 4>における東京式アクセント的な姿をみせる地点と一致した。実に一致率は 86% であり、東京式アクセントに沿った形を示した地点の多くでは意識を伴っていることが予想される。

2-4 .「帆」と「穂」

同様に、[表 1] ~ [表 4] より「帆」と「穂」のみを抜き出した表を [表 8] として作成した。

この場合、「帆」のアクセントは現代共通語アクセントでは頭高に変化したため、両方の語が頭高なることが相応しい。しかし当地域においてはそのような姿はあまりみられないようである。

老年層では、35 地点が頭高のみを示した。しかし、<図 1>との比較により、3 地点のみが共

[表8]「帆」と「穂」の比較

	地点名	那須町	黒磯市	塩原町	栗山村	大田原	黒羽町	矢板市	塩谷町	日光市	今市市	喜連川	馬頭町	足尾町	河内町	烏山町	粟野a	粟野b	鹿沼a	鹿沼b	宇都宮	芳賀町	茂木町	壬生町	上三川	真岡市	益子町	栃木市	国分寺	二宮町	大平町	小山市	野木町	中央	仙波	水木		
老年層	帆が穂が	/	/	/							/		/	/		/								/	/	/	/	/	/			/	/	/	/	/	/	
中間年層	帆が穂が				/	/	/	/								/	-						/															
青年層	帆が穂が			/	/	/	/	/					/	/	/							/									/						/	
青年層	帆が穂が			/									/	/	/						/																/	
若年層	帆が穂が		/					/						/	/		/	/					/	-	/						/		/	/				
若年層	帆が穂が	/	/	/			/	/					/	/	/		/	/					/	/	/				/		/	/	/	/	/	/	/	

	地点名	栃本	船越	作原	山形	飛駒	小野寺	三谷	名草中	山下町	山川町	駒場町	赤見町	並木町	犬伏下	上羽田	高萩町	馬門町	大田和	大前	藤岡	中野	赤堀	成島町	大島町	緑町	大高島	板倉	上江黒	川俣	羽生市	栗橋町	古河市	下館市			
老年層	帆が穂が						/											/	/		/	/	/	/	/		/	-	/	/	/	/	/				
中間年層	帆が穂が	/	/	/	/	/	/						/	/	/				/	/	/	/	/	/	/		/	/	/	/	/	/	/	/			
青年層	帆が穂が	/	/	/	/	/	/	/	/										/					/	/								/	/			
青年層	帆が穂が				/	/	/	/	/				/	-										/	/	/	/	/									
若年層	帆が穂が	/			/								/			/			/																/		
若年層	帆が穂が												/			/							/	/											/		

通語アクセント的な姿のものであろうと思われる。一致率はわずか 9%であり、多くの地点は別の要因で両方の語が頭高アクセントになったものと思われる。

中間年層では、42 地点で頭高のみを示したが、<図 2>と比較すると、その内の 5 地点が共通語アクセント的な姿のものであると判断される。一致率は 12%と老年層と五十歩百歩であり、やはり別な要因で両方の語が頭高アクセントになったのであろう。この別な要因とは、実現型が頭高になりやすいという性質であることと思われる。

青年層では、46 地点が頭高のみを示した。その内、<図 3>との比較により、18 地点が共通語アクセント的な姿をみせる地点であり、一致率は 39%であった。老年層・中間年層と比較するとかなり高くなっているが、やはり率としては半分を切っており、多くの地点では偶然にこうなったのではないかとと思われる。

若年層では、45 地点が頭高を示し、一見青年層よりも減っている。しかし、<図 4>との比較によると、内 29 地点は共通語アクセント的な姿をみせる地点であり、一致率は 64%まで上がっている。しかし一致率は高くなっているものの、やはり全体的に混乱している様子が見られる。変化したアクセントへの対応という点を加味すると、まだまだ共通語アクセントの浸透は不十分ではないかと思われる。

2-5. まとめ

これまでの数値を [表9] として表した。

「柄」と「絵」においては、老年層から若年層にかけて、同じアクセントを示す地点が一貫して多い。特にアクセントの変化は起こっていないので、これらの語のアクセントの違いの意識については薄いものと判断できる。

「名」と「菜」についても、一致率は高くても、若年層においても 40 地点は同じアクセントであったように、同じアクセントを示す地点が多くては、その一致率をそのまま鵜呑みにはできないと思われる。やはり多くはその違いについての意識は薄いのであろう。

[表9] ミニマルペア語同士のパターン一覧

		同じアクセント		異なるアクセント				
		頭高	尾高	東京式的	図と一致	一致率 (%)	逆転	その他
柄と絵	老	36	9	20	3	15	4	1
	中	43	11	12	5	42	4	0
	青	36	3	28	19	68	1	2
	若	40	1	28	19	68	1	0
名と菜	老	30	14	10	4	40	10	6
	中	34	17	9	7	78	6	4
	青	18	18	27	18	67	4	3
	若	12	28	24	20	83	5	1
日と火	老	31	18	16	4	25	3	2
	中	24	18	22	9	41	6	0
	青	21	12	35	26	74	1	1
	若	13	9	42	36	86	5	1
帆と穂	老	35	15	8	3	9	10	2
	中	42	8	7	5	12	11	2
	青	46	5	8	18	39	9	2
	若	45	10	5	29	64	9	1

帆と穂では、「図と一致」での比較対象は「頭高」である。

「日」と「火」については、同じアクセントになる地点は年層と共に減っていき、逆に一致率は年層と共に上昇している。このミニマルペア 4 つの組み合わせの中では最も弁別意識が強いものではないかと思われる。

「帆」と「穂」では、他のペアと異なり、アクセントの弁別意識があるならば、両方の語が頭高アクセントになる。しかし、このようなアクセントの変化した場合についての対応意識は低く、両方の語が頭高型を示さない地点数は全体的に中間年層以降大きな変化はないということが指摘されよう。したがって、一致率は年層と共に高くなるものの、それは、主に栃木県外と栃木県の南西部域のような東京式アクセントの影響を受けやすいという要素のある限られた地域でのことになるであろう。

3. 一拍名詞のまとめ

やはり調査地域の中心はいわゆる崩壊アクセントの地域であるためか、若年層にいたっても本質的に共通語アクセントの取得にいたらないと思われる点が多々みられる。

また、老・中などの上位年齢層では、実現型としては頭高型になる場合がかなり強い。これも先行研究において崩壊アクセントの特徴の一つとされていた。筆者の調査においても、その様子はかなり強く感じられる次第である。しかし、崩壊アクセントは一型アクセントとは別のものであり、当地域の話者の多くは、アクセントの弁別をしないという特徴がある。したがって、あくまで実現型がそうなるものである。

青・若などの下位年齢層では共通語アクセントの影響と思われる点がみられ始めるが、それが現れてくるのは、多くの場合、栃木県南西部とそこから南の地域である。南西部以外の栃木県内では勢力はそう強くなく、若い世代に至っても崩壊アクセントの根強さを感じる次第である。

< 本論で使用した表及び図の凡例 >

凡例	アクセント型
	頭高型 []
/	尾高型 []
-	全高型 []

< 参考文献 >

大橋勝男（1988）『関東地方域の方言についての方言地理学的研究 第一巻』桜楓社